

マナーキッズテニス教室での課題と普及していくための手立て

宮崎県小林市立細野小学校
教諭 村中田 博

1 はじめに

これまでも多くの成果が報告され、極めて高い評価を得ている。実際に子ども、保護者、同僚の反応も大変良かった。よって、実践に至るまでの課題と、今後普及していくための手立てを中心に述べてみたい。

2 実践に至るまでの課題・・・【理解を得ることと協力者の確保】

- (1) 年間指導計画に位置付けられていないものを取り入れることの難しさ(時数減等)
- (2) 同僚に企画する際の提案文書(教育委員会、各関係機関等の後援やバックアップ)
- (3) 学校から子ども・保護者への魅力的な案内文書(講師のプロフィール等)
- (4) ボランティアスタッフの確保(県・市テニス協会、市スポーツ指導員、職業コーチ、保護者)

3 普及していくための手立て

- (1) 小学校体育においてテニスをメジャー種目へ

A 大学や研究機関と連携し、教育委員会・体育・スポーツ指導者に理解を得る

学習指導要領にネット型としての例示はソフトバレーしかない。教育現場に影響力のある大学教授等に機会あるごとに推薦していただく。

- 教育講演会や体育指導者講習会で、道具の紹介も含めた話題提示をしてもらう。
- 教育誌・体育雑誌等へ、実践例を掲載してもらう。

B 教科書会社と連携し、体育の教科書でスポンジボールでのテニスを取り上げられるようにする

教科書会社の体育科年間指導計画例(ネット型)には、ソフトバレーが中心に取り上げられている。

- 大学や研究機関の関係者と連携して、教科書会社へのアプローチを図る。
- 年間指導計画にテニスを取り入れた例をインターネット等で公開する。

C 教材備品のカタログ等にテニスの道具一式を取り上げられるようにする

ソフトバレーの支柱の低い位置にネットをはる場作りはどの学校でも実践しやすい。学校で購入しやすい安価なラケット、ボールをどう案内し、普及していくかが課題である。

- 各メーカーと連携を強めていく。(ラケット・ボール・ネット・簡易得点板・ライン・セット販売)

- (2) マナーキッズを実施しやすい環境作り

D マナーキッズをパンフレット等で、全国の関係者へ知らせる

全国の幼稚園・保育園・小学校、関係機関へ魅力的なパンフレット等を配布する。

- 都道府県の教育委員会を通して一人ひとりに配布する。
- メディアの活用を積極的に図る。(情報番組・新聞・雑誌・広告・CM・有名人の体験等)

E 幼稚園・保育園・小学校教員を中心にした組織作りをする

ジュニア委員会、中体連・高体連専門部、普及部等は組織されているが、小学校の教員等での組織が宮崎にはない。各地区にリーダーとなる人材を発掘していく。

- 普及に成功した他競技(タグラグビー等)の実践を参考にする。
- 開催マニュアル、メリット、授業実践等の情報を提供し、勤務校でやってみたいと思わせる。

F テニスクラブ、コーチ、シニア、地域人材、ボランティア団体等を巻き込んだ組織作りをする

幼稚園・保育園・小学校低学年のうちに体験させ、興味を持たせることは、その後テニスを習い始める可能性が高くなる。地域のテニスクラブ、コーチにも将来的なメリットを示し、連携を図る。

- 子どもと保護者、地域人材を巻き込み、全国大会出場も視野に入れた組織作りをする。
- ボランティア団体、定年退職者、シニア等に新たな「生きがいの場」として紹介し、協力を依頼する。

G 人と人をつなぐネットワークを構築する

高め合える組織作り、マナーキッズ教室運営、各種研修、補助金の申請方法など、モデル的な取組を学べるシステムを作る。

- インターネット・メルマガ等で実践例を公開し、関係者での円滑なネットワークを構築する。

4 おわりに

積極的に情報交換していくことで、他の実践から多くを学び、今後の取組に生かすきっかけとしたい。このプロジェクトを普及・発展させ、体・徳・知のバランスのとれた子どもを育てていきたい。